

5月30日、7月14日に続き8月11日木曜日に調査。干潮が10:29の11cm、9時過ぎ頃から潮が大きく引いている浜に降りた。今回は人が殆ど行かない西の方から始めたが、岸近くがぬかるみで足を取られ、入れないところがどこまでも続き、やっと西堰堤近くで入ることができた。ぬかるみには植物の茎や枝がけっこう入っていて、7月上旬に関東地区で降ったゲリラ豪雨により上流から流れてきたものだろうか。

調査は干潟の縦横20cmの区画のなかをシャベルで掘り返して貝類を探すもの。岸近くから始めた。あちこち6回ほど黒い砂を掘って調べたが何も出てこなかった。蟹の穴はけっこうあった。50cmくらいのアカイエが2匹死んでいた。ということは付近どこかに貝がいるのだろうか。岸近くで熊手を入れたところ、ヘドロの下は粗粒砂で牡蠣殻がけっこう混じっていた。そこで1.5cmくらい



西浜の西部での波打ち際近くのぬかるみ

ハマグリ稚貝を見つけた。

その後人出の多い休憩所沖に移り、熊手で調べた。だいたいが空振りであったがやっと2cmくらいのお小さなバカ貝、1cmくらいのアサリ2個珍しく3c



西浜の西の方。黒いところは掘り返したところ



休憩所沖方向 多くの人出

mくらいのアサリ1個に遭遇。マテガイは7月より少なく2個くらいしか見ることができなかった。ハマグリは生息密度は低いものの、沖の方である程度成長しているものが取れた。初めて取れたものを家族連れにさしあげ、女性グループから2個もらったので、自分が取ったのは6個である。周りを見ると、数は少ないがハマグリを持っている人がいたので、ある程度分布していると思われる。



ハマグリ

ハマグリは大きいのが5.6cm、4.6cmで、あと、4.1cm×2、3.8cm、3.5cm×2、また3cm、2.5cm、1.5cmの小さいものもあった。

4cm内外のものが多く、7月14日の調査でもこの大きさが揃っていて、どうもコロナ流行が

始まった前後頃、比較的多くのハマグリ稚貝が着底に成功したことを示しているようである。大きいと小さいのがいたことは、それより前後の時期でも少しは着底していることをうかがわせる。

また、アサリ等他の貝は着底が殆どできない状態にあると考えられる。